

かけがわの森から

掛川市森林組合通信



2023年夏号 Vol.64



地域の木を挽き、 繋ぎ、活かす。

木を見て、その木を活かしきる。
帯鋸一本で、家を棟建てるための
すべての建築材を揃えられるように。
こうした技術をもつ製材所が地域にあります。
かつての建築領域は、地域の山や製材の現場と
強いつながりを持っていました。
いま、あらためてその価値が
求められています。

榛村航一 組合長の 元気もりもり(森・森)通信 32



森町森林組合 / 掛川市森林組合 業務提携研究会の経過報告と 組織力向上研修(実践編)の実施について

昨年8月開催の通常総会にて業務提携研究会を立ち上げることについてご承認をいただき、これまで5回に渡り研究会を開催してまいりました。第1回、第2回は外部講師(全国森林組合連合会専務 富山氏、県内トヨタ系ディーラー3社を合併へ導いた初代トヨタユニテッド静岡社長 平光氏)をお招きしました。厳しい社会経済情勢の中、地域林業の担い手として組合の経営基盤強化は不可欠であること。そして組織統合には苦労もあるが、林業DX、ICTなど時代の変化に対応できる持続可能な林業経営をしていくためには、人材基盤・設備基盤・組織的対応力を発揮できる中核的な規模が必要であること。こうした学びから、改めて経営基盤の強化を目指していく必要があると感じました。

第3～5回では、さらに業務提携の在り方について研究を深めた結果、「組合員サービスの向上」には組合職員のレベルUP(優秀な職員の採用・育成)が重要であり、そのためにはそれが可能となる組織規模体制を築き社会ニーズの変容に柔軟に対応していく必要があるという結論となりました。

と同時に、両組合の仕事の進め方や考え方の統合は途上であり、急速な組織統合では摩擦が生じる可能性が大きく、その摩擦を最小限にするためには、組織統合しても職員の業務執行には支障がないことを確認する過程を踏む必要があるのではないかと考えに至りました。

そこで、令和2年のお互いのことを知るために行った「組織力向上研修」、令和3年の業務を共通化してみるために行った「組織力向上研修2」、それに続き、今年度は実際に業務執行を一緒に実践する「組織力向上研修(実践編)」を行うこととしました。

今後は、お互いの職員同士が、これなら業務提携を進めていけそうだな!という自信と納得感を形成していけるよう、業務提携研究会では職員たちの研修の進捗を把握し、時にはアドバイスをしながらか、組織統合の方向性を判断してまいります。

これいい! 購買担当「リエさん」のオススメGOODS!!

● **振動軽減手袋・断振具手袋** (サイズM・L・LL・3L) **¥1,320** (税込)

これからの草刈りシーズン、
チェーンソー作業に!
振動工具使用時の“手のしびれ”や
“握力低下”を予防します。
高耐久人工皮革で摩擦に強く、
柔軟なので作業がしやすいのが
特徴です。



刈払機・ドリル・グラインダー
チェーンソー作業を快適に!

手の平
振動軽減パッド付

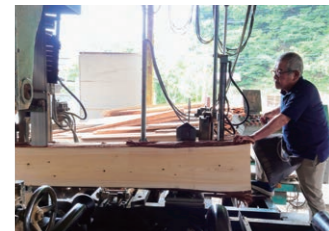


組合員さまへのお願い

相続等で所有山林に異動が生じた際は
森林組合へご一報ください。



発行元
掛川市森林組合
〒436-0335 静岡県掛川市大和田320-1
TEL.0537-25-2111 FAX.0537-25-2113
<https://www.kakemori.jp>



一本の帯鋸で、住宅に必要な部材をすべて挽く。一本の木を、余すところなく挽ききる。地域の製材所として、その信念を買きたい。

今号のインタビューは掛川市日坂で製材業を営む(有)三浦製材所さん。同社3代目となる代表取締役の三浦定義さんに、地域の製材所をめぐる環境の変化や地域の木を活かす思いについて、お話を伺いました。

かけがわインタビュー 13

地域の製材業を取り巻く環境について伺います。

三浦：地域の製材会社は今、とても苦しい状況に立たされています。木材製品の取引価格が長年にわたって乱高下を続けているからです。最近の木材価格は国際価格化し、大手製材会社、流通業者や商社の動向、もつと言うと為替や政策など国際情勢によって決定されるようになっていきます。小規模な地域の製材所としては本当に厳しい経営環境が続いているのです。

小規模工場に二極化しています。それでも三浦さんは地域の木を活かす製材所として凛として存在されています。三浦：二十年前まで掛川市内には10軒ほどの製材会社があったのですが、今は2軒しかありません。激減です。それでも当社は「地域の木を活かし、良い材木を売る」という信念と、本当の木の良さをお客様の支えによって存続してきました。



掛川産材を使用した木材保管庫の前で

と強いつながりを持っていたといえます。それが今ではそのつながりも多くは分断されてしまっています。森林組合さんとの関わりでは、当社の「掛川産材を使用した木材保管庫」の構造材や袋井の「近藤記念館」の12mの湾曲梁などを一緒に調達したこと、また森林組合事務所の木材を製材したことは思い出深いものです。

会社を継承していきたいと思えます。家づくりは多様化し、時代と共に変化しています。息子たちの世代はその変化に応じて技術を活かしてほしいです。その環境づくりを行うのが今の私の役割です。かつては建築側が山へ足を運び、木材と住まいのコーディネートをしていました。また、製材所は木が家へと姿を変えることを想定して木材をつくっていました。これからの時代は、山側の人間が森林の経営管理をしつつ、木が人の暮らしに入るまでの見直しをもつこと、さらには木に関わる人たちとの連携を図り、地域の森林と木材の価値をもっと魅力的に提案する立場になることが求められているように思います。



材を前にと眼光鋭くなる三浦さん

木の特徴を活かして住宅一棟に必要な部材は何でも挽く、という古き良き地域の製材会社は数を減らし、ハウスメーカー主導による画一的で限定的な木材を生産する製材会社に置き換わっていきました。しかもそれは効率を求めて大型化、自動化し、木は低価格化しました。その反動で木をよく見て余すところなく製材する技術は廃れつつある状況なのです。

三浦：地元の大工さんが家を建てるのが当たり前だった時代には、大工本人が山へ行き、家に合う木を選んでいました。場合によっては製材にも大工が関わりました。建築領域の人が、地域の山や製材現場

三浦：私はこの帯鋸(製材機)一本で家を二棟建てられるすべての建築材を揃えられるよう技術を磨いてきました。そして今、二人の息子が後継者として会社を引き継いでいます。「私たちが地域の家づくりを担っている」と信念をもって

コラム・美林掛川へ新職員紹介

掛川市森林組合の新しいメンバーを、本人へのインタビューも交え、あらためて紹介します。

―組合への就職に至る動機や背景を教えてください。

山田：前職は食品卸業にいました。林業に就きたいと考えて様々な事業体を検討した中で、E・M・T・B事業をはじめとした掛川市森林組合の先進的な取組みを知り、強く惹かれました。原田：教師を務めながら、休日にはキャンプなどアウトドアを楽しんでいました。その中で、「自然が好き、自然の中で働きたい」という想いがどんどん募っていった事



川瀬 駿空 (20歳) 施業整備課
 竹嶋 快充 (59歳) 参与
 原田 裕太 (31歳) 経営計画課
 山田 剛照 (34歳) 施業整備課

竹嶋：この新しい事務所をつくるときは掛川市職員として担当をしていたので、掛川市森林組合にはずっと関心を寄せていました。川瀬：静岡県立農林環境専門職大学在学中に掛川市森林組合でインターンシップをさせていただき、ここで働きたい!と強く思うようになりました。願いが叶いました!

―仕事に就いてみて、現在抱えている想いなども教えてください。

川瀬：いちばん若手なのにちよつと偉そうですが、社風が良い!と思います。意見を出しやすい風通しのよさもありです。組織の一員に入れてもらって光栄です。原田：木材を生産するだけでなく、組合には森林の価値を「伝える」という役割があることを実感しています。どつぷりと自然の中に浸かる充実感もいっぱいです。山田：チェーンソーの操作がなかなか思うようにいきません。難易度の高い職種だな、というのが実感です。まだキャリア半年ですが、難しいからこそやりがいのある仕事だと思っています。

竹嶋：こうして若手職員とワイワイやれるのが良いですね。そして組織が「職員に信頼されている」と実感しています。異動の多い職場と違い、腰を据えつつ常に前を向いて進んでいます。とてもうまくいきますよ!

トピックス

第62回通常総会を開催します

総務経理課

日時：8月25日(金)9時より受付開始。会場は掛川市生涯学習センターです。総会資料等は8月中旬に郵送しますので、「出席確認書」によりあらかじめ出欠を確認させていただきます。欠席の方は「議決権行使書」のご提出をお願い申し上げます。総会記念品につきましては、当日ご出席の方には総会にて、議決権を行使していただいた方には、後日送付させていただきます。総会終了後には講演会を予定しております。講演会の詳細は改めてご案内申し上げます。

市立原田小学校の「にこにこネイチャーフェス」



にこにこネイチャーフェスは、児童が木と触れ合う事で、森林や木を大切に育む持ちや地域の環境を守る気持ちを持つためのイベントです。当組合では、掛川市産ヒノキの木製ジャングルジム設置とMY箸づくり体験のお手伝いをさせていただきました。箸づくり体験は子供達自身が行いました。ジャングルジムは子供達自身が行いました。箸づくり体験は子供達自身が行いました。箸づくり体験は子供達自身が行いました。

組織力向上研修(実践編)について

当組合と森町森林組合が合同で行うこの研修は、職員を主体として、両組合の業務に対する考え方や進め方の統合と組織マネジメント手法の共通化を目指し、業務の共通化や共同プロジェクトに取組むほか、職員が業務に関する幅広い知識を習得するため、専門家による講義形式の研修が予定され、円滑な業務連携を目指し本年12月まで実践します。